

令和2年度事業計画

令和2年3月21日～令和3年3月20日

予算策定期間に社会情勢が変わり、令和2年度はオリンピック・パラリンピック開催の明るい年という思惑から一転して、米中貿易摩擦の深刻化、未知のウイルスの感染拡大に伴う世界経済の低迷など暗雲が社会を覆いつつあり、当財団の収入源である株式配当も見通し難い状況となりつつある。収入については如何ともし難い中、当財団への研究助成や奨学金給付についての期待は変わっておらず、社会の期待に応えて自分達のできる範囲で、出来ることを為すのみである。

状況の変化に応じられるような準備を忘れずに、足元を見つつ昨年と同様の事業規模で、以下の事業を行う。

1. 研究開発等助成事業

研究開発等のグループ

- (1) 京都大学大学院 農学研究科（奥井氏）の「ヒト試料の利用をめぐる倫理的・法的課題 ～試料の所有権と管理権～」に対して助成を行う。（新規研究）
- (2) 静岡県立大学 国際関係学部（松森准教授）の「ホスピタリティの系譜学 ―客-敵、歓待-排除の二項対立を超えて～」に対して助成を行う。（継続研究）
- (3) 九州大学 農学研究院（宮本教授）の「バクテリオファージによる食中毒菌制御に関する研究」に対して助成を行う。（新規研究）
- (4) 株コムテック22（上原氏）の「日本におけるフードサービスの歴史的展望～日本フードサービス協会の諸活動との関係を踏まえた歴史分析～」に対して助成を行う。（継続研究）
- (5) 京都大学医学部附属病院（武信助教）の「集中治療領域へのユマニチュード法導入が治療結果に与える影響」に対して助成を行う。（新規研究）
- (6) 山形大学 農学部（永井教授）の「ジビエ肉の高度有効利用を目指した高品質な肉醤開発」に対して助成を行う。（新規研究）
- (7) 金沢大学 先端科学・社会共創推進機構（嘉瀬井研究員）の「芸術祭における地域住民のホスピタリティ意識の醸成に関する研究」に対して助成を行う。（新規研究）
- (8) 専修大学 人間科学部（金研究員）の「食とコミュニティの防災活動に関する社会学的研究―熊本地震及び九州北部豪雨の被災地での参与観察及びインタ

ビュー調査を踏まえて―」に対して助成を行う。(新規研究)

- (9) 東北大学大学院 農学研究科(高橋准教授)の「食の安全性を高め、かつヒトの健康を増進する養殖牡蠣の処理法と調理法の探求」に対して助成を行う。(新規研究)
- (10) 名古屋大学大学院 医学系研究科(入山教授)の「医療ツーリズムを見据えた日本人看護職のホスピタリティに関する研究」に対して助成を行う。(新規研究)
- (11) アジア栄養食育産業人材育成塾(向坂准教授)の「ツーリズム型栄養食育指導者育成研修プログラムの構築」に対して助成を行う。(新規研究)

観光産業特別枠のグループ

- (12) 山梨大学 地域防災・マネジメント研究センター(鈴木センター長・教授)の「通訳アプリを用いた災害対応実験による災害時の外国人旅行者支援のための会話データベースの構築」に対して助成を行う。(新規研究)
- (13) 東京理科大学 土木工学科(寺部教授)の「Wi-Fi技術と機械学習を用いた歩行回遊観光における目的地推奨アルゴリズムの開発」に対して助成を行う。(新規研究)
- (14) 中村学園大学 栄養科学部(水元教授)の「食のダイバーシティに対応するフードツーリズム・モデルの構築」に対して助成を行う。(新規研究)
- (15) 玉川大学 観光学部(家長教授)の「SDGsとホスピタリティとが融合した観光まちづくりに関する調査研究～ニセコエリアにおける新たな観光まちづくりのあり方を中心として～」に対して助成を行う。(新規研究)
- (16) 立命館大学 産業社会学部(富永准教授)の「エシカル・ツーリズムからみる新しい時代の観光に関する考察」に対して助成を行う。(新規研究)
- (17) 山形大学 農学部(渡辺准教授)の「ふるさと資源による関係人口づくりと共創型観光むらおこしに関する研究」に対して助成を行う。(新規研究)
- (18) 和歌山大学 食農総合研究所(植田助教)の「研修システムからみる農家女性の主体性形成に関する研究」に対して助成を行う。(新規研究)

教育等のグループ

- (19) 和歌山大学 観光学部(藤田教授)が担当する寄付講座「地域づくりの理論と実践」に対して助成を行う。(継続研究)

- (20) 玉川大学 観光学部（香取学部長）が担当する寄付講座「ホスピタリティ・マネジメント」に対して助成を行う。（同一大学新規研究）

その他

- (21) ホスピタリティ事業の振興に役立つ研究開発事業に対して助成を行う。

2. 奨学金給付事業

全国の大学・短期大学・専門学校において、「ホスピタリティ」事業に関わる学科を専攻する学生、或はホスピタリティや食文化に関心を持っている学生を募集・選考し、39名に対し奨学金月額20,000円を給付し、ホスピタリティ文化やホスピタリティ事業を担う人材の育成を図る。〈一般募集〉

ロイヤルグループの指定寄付による被災学生を対象とした特別奨学生22名（うち既に特別奨学生選考委員会で採用を内定したものを17名、3月末に採用予定の進学予定者5名）に対し奨学金月額25,000円を給付し学業の継続を支援すると共に、ホスピタリティについての関心を醸成する。〈特別募集A〉

特定非常災害対応奨学生1名に対し奨学金月額25,000円を給付し学業の継続を支援する。〈特別募集B〉

3. 海外研修・留学等助成事業

- (1) オーストラリア シドニー大学 薬学部大学院ヘルスサービス専攻の博士過程に留学中の者1名に対して助成を行う。（継続助成）

- (2) 7月1日応募締切の後期留学者に対して助成を行う。

4. 研修会等開催助成事業

- (1) 一般社団法人国際観光日本レストラン協会の「親子体験食味学習会」開催に対して助成を行う。実施期間は夏休み中。（継続事業）

- (2) 日本比較教育学会の「第56回大会公開シンポジウム」開催に対して助成を行う。（新規事業）

- (3) 立命館大学食総合研究センターの「食と観光シンポジウム」開催に対して助成を行う。（新規事業）

- (4) 安心院NGT（ニューグリーンツーリズム）コンソーシアム協議会の「農縁サミット2020」開催に対して助成を行う。（新規事業）

5. 文献・資料等収集整備事業

専門書・資料等を収集して、食や観光などホスピタリティ事業に関する蔵書の充実を図ると共に、広く一般市民や奨学生、または業界関係者に開放する。

「外食産業経営論」並びに「外食産業史」を中心に引き続き資料収集の準備を行い、専門分野の図書充実を図る。

また、ホスピタリティ産業に対する理解と関心を一層深めるために、奨学生他に対し、蔵書の中から刊行物及び資料を配布する。

6. その他の事業

(1) 井原山田縁プロジェクトの「『まち』と『むら』の支え合いを深めるプロジェクト」に対して助成を行う。(継続事業)

(2) ななつか「食と農」の会の「『食べ事』の継承と連携の構築」に対して助成を行う。(継続事業)

(3) ホスピタリティ事業の振興に役立つ事業に対して助成を行う。

以上